

# 授業欠席者への情報保障

北星学園大学

授業サポートプロジェクトチーム

金子大輔

2021/4/1, 2 FD用資料

# 情報保障の基本的な考え方

- 情報保障や単位習得上の配慮が必要な学生
  - 対面・非対面授業ともに
  - 感染予防上の合理的な理由や、通信障害などの理由により欠席
- 「情報保障」の具体的な範囲や方法
  - 各科目担当者が判断
  - 各科目・各授業回の学習目標への到達度を考慮し、単位修得のための学習が可能となるように
- どのような情報保障を行うのかをあらかじめ学生に示しておく

# 対面授業の欠席者への情報保障

- 体調に異変を感じた際に、無理に登校させないため
  - 対面授業の欠席が単位修得上の不利益に直結しないことを学生に周知
- 情報保障や配慮が必要だと考えられる場合の例
  - 体調に異変を感じたため登校を見送った
  - 濃厚接触者となってしまうと2週間の登校禁止となった。
  - 両親が医療従事者、介護職従事者であるため登校を控えたい
  - 感染するリスクを避けるため、遠隔で授業を受講したい
- 「欠席者全員」に対して情報保障や配慮が必要というわけではない→次のスライド参照

# ズル休みする学生も情報保障するのか？

- 悪用例
  - 1 講目は電車が混むので感染リスクを避けるために遠隔を希望する（早起きを回避したいだけ）
  - 大学に登校するのが面倒なので体調不良を理由に遠隔を希望する
- 重要なことは「感染拡大防止の観点から休まざるを得ない」学生のフォロー
  - 本当に体調が悪い時に、安心して休める環境を整える方が重要
  - ズル休みした学生の教育的指導はひとまず考えないでおく
- 情報保障の対象となるのは「感染予防上の合理的な理由」があるかどうか
  - 理由が合理的かどうかは授業担当者が判断する
  - あらかじめ対面授業に出席しない場合の手続きを示しておく

# ズル休みした人と成績が同じでいいの？

- 大原則：成績評価は学習目標への到達度などから科目担当者が判断、出席点は成績評価には含めない
- 対面授業に参加した学生と参加しなかった学生を「必ず平等に」扱う、というわけではない
  - ただし、差を設ける場合は、Moodle 等によりあらかじめ成績評価の基準を示しておくことが望ましい
- なぜその評価になったのか、学生が納得できるようにしておくことが大切
- 濃厚接触者になる等で強制的に自宅待機になる場合もある（インフルエンザなども同様）ことは意識しておく
  - だからこそ「手続き」を明示し、手続きに従ったらこうなると示す

# 情報保障時の基本理念

- 対面授業の出欠に関わらず、シラバスに記載された「到達目標」を達成できるようにする
  - 科目全体の目標と、その授業回（複数回をまとめる場合もある）の目標を明確にする
  - 授業目標の達成を確認できる評価方法を設定する（小テスト、レポート、アンケートなど）
- 授業目標を達成するためには、欠席者にどのような情報を提供すれば良いかを考える
  - 授業の録画、オンデマンドで見られる映像資料、追加の文献、追加の課題など
  - 対面授業に参加した学生と全く同じ情報の提供が必要なわけではない

# 具体的な情報保障のパターン

- A) 対面授業と同様の教育効果が得られる課題を実施
  - △課題の設定方法にある程度工夫が必要だが効果は得られる
  - ×学生の負担が大きい
- B) 対面授業と同様のオンデマンド教材を作成
  - ○教育効果が大きい
  - ×教員の負担は大きい
- C) 対面授業を録画してmoodle等で配信
  - ○講義系科目には適している
  - ×録画時にコツや支援が必要（板書，音声）
- D) 対面授業と遠隔授業の組み合わせ（ハイブリッド型授業）
  - ○講義系科目、ゼミなどもやりやすい。学生がその場で質問しやすい
  - ×授業設計を考慮する必要がある

CやDあたりがおすすめ

## C) 対面授業の録画と授業後の配信

1. ビデオカメラ、三脚、外部マイク（教員の音声収録用）
  2. スマホやタブレット（iPhone, iPadなど）、スタンド、外部マイク
  3. Webカメラ、外部マイク、zoomのクラウド録画（同時配信も可能）
- 録画したファイルをPCで処理し、OneDriveで共有→URLをmoodleで公開。またはYouTubeの限定公開



## C) 録画時の注意

- 音声が一番重要：はっきり聞こえるように録音する
  - 教員の音声は外部マイクがほぼ必須
  - 学生の発言の録音はかなり困難（ゼミなら誰かが文字で記録する方が確実）
- 板書は（画角によっては）分かりづらい
  - 文字の大きさなどを考えて板書
- 資料（映画等）など、録画して公開すると著作権上の問題が起こる場合がある
- 講義形式の場合はzoomで録画すると楽

## D) ハイブリッド型授業

- D-1) ハイフレックス型 (Hybrid Flexible, or HyFlex)
  - 同じ内容の授業を、対面とオンラインで同時に行う授業方法
  - 対面と遠隔で受講内容にそれほど差がない
  - ゼミなど学習者のやりとりがある場合に有用
- D-2) ブレンド型
  - 対面回とオンライン回を教育効果を考えて組み合わせる授業方法
- D-3) 分散型
  - 同じ回に異なる内容の授業を対面とオンラインで行い、学生は分散して受講する授業方法
  - 対面授業を全員に行う必要があるが人数制限が必要な場合に、授業回数を増やすことなく実施可能

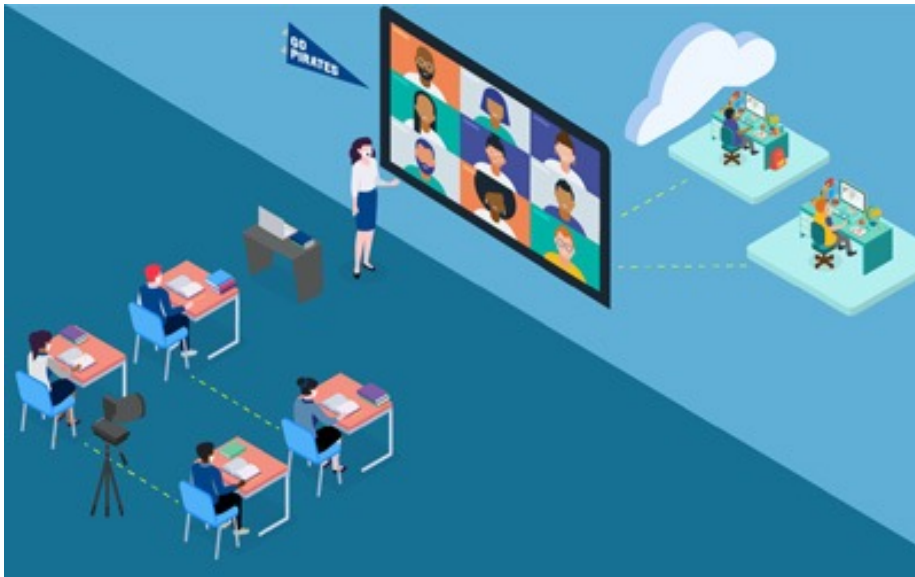
「対面授業の情報保障」としては使いづらい

## D-1) ハイフレックス型の例

例：YAMAHA YVC-330など



- ① Zoomで接続，スクリーンに投影，スピーカマイクを使用
  - ② 全員がノートPCでzoomに接続 or 全体を映すカメラ
- 通信障害などのために授業の録画は必須（後に公開）



<https://www.shu.edu/technology/hyflex-classroom-technology.cfm>



<https://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp/y/lab/2020/07/post-22.html>

# ハイフレックス型の注意点

- クラスの人数や授業目的に応じ、教室マイクやスピーカマイク、ヘッドセットの利用について検討する必要がある
  - 音声のハウリングなどが起こらないか、事前にチェック
- 遠隔で参加している学生の存在を忘れがち
  - 板書が見えるかどうか
  - 対面出席者の「声」が遠隔の学生に伝わっているか
  - Zoomで画面共有したものを教室内のプロジェクタで投影すると良い
  - 遠隔での受講者が映っている画面を確認するために別にPCやタブレットなどを準備すると良い

# 非対面授業の欠席者への情報保障

- 情報保障・配慮が必要な場合の例（特に同時双方向型）
  - 対面授業の直後で、授業の準備(場所の確保、パソコンやソフトの起動)に時間を要した。
    - 前の時間が時間通りに終了していても、授業開始に間に合わない場合もある
  - パソコンや自宅ネットワークの調子が悪く、スムーズに接続できなかった
  - Moodleなどのサーバにトラブルがあり、期間内に受講できなかった
- 情報保障のパターン
  - A) 授業動画（zoom）の録画の提供
  - B) 授業と同様の課題を課す
  - C) オンデマンド教材を作成して提供
  - D) 課題の提出締め切り時間を延長する（オンデマンド授業）
- 基本的な考え方は、対面授業の情報保障と同様